

日本メキシコ外交関係樹立 130 周年記念コンサート

2018 年 6 月 29 日、東京

日本メキシコ外交関係樹立 130 周年を記念して、本日在日メキシコ大使館のエスパシオ・メヒカーノにて 200 人以上の観客が出席する中、ロバート・ライカー氏指揮による東京シンフォニアコンサートが開催されました。

「メキシカン・セレナーデ」と題した今回のイベントでは、ダンソン第 2 番（アルトゥロ・マルケス作）をはじめ、マリアッチの調べ（ブラス・ガリンド作）やウアパンゴ（ホセ・パブロ・モンカーヨ作）といったメキシコの代表的な交響曲が初めて演奏曲目に含まれました。



歓迎挨拶の中でカルロス・アルマーダ駐日メキシコ大使はメキシコと日本を結ぶ長い友好関係においてこの 130 周年が如何に重要であることを強調するとともに、東京シンフォニアのような管弦楽団向けにメキシコの楽曲をアンレジしたライカー氏のその素晴らしい活動を賞賛しました。また楽曲についての解説も行い、メキシコ人作曲家の偉大な才能について言及しました。



一方ライカー氏は、メキシコ音楽の情熱とインスピレーションを生み言語の壁を乗り越える普遍的価値こそが文化・社会間の理解の絆を築き上げるのだと強調し、素晴らしいメキシコ音楽を楽しみながら日本メキシコ外交関係樹立記念を祝う以上に最高の祝福方法はないと述べました。